

キュウリ黄化えそ病の迅速診断を行うための 診断マニュアルを作製しました

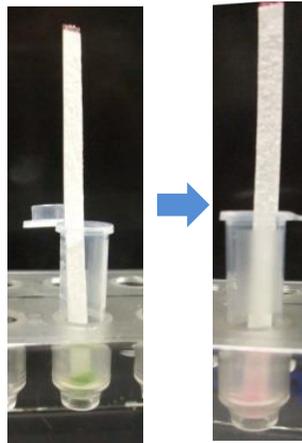
海津地域のキュウリ産地ではメロン黄化えそウイルス（MYSV）を原因とするキュウリ黄化えそ病が問題となっています。被害抑制のためには罹病株の早期診断と処分が必要であり、現場で利用できる簡易な診断方法が求められています。そこで、特殊な設備や技術を必要とせず、簡便かつ安価に診断できる技術として、既存の報告をもとに検定ろ紙（RIPA法：迅速免疫診断ろ紙検定法）の本県キュウリ栽培での利用を検討し、本資料を用いた診断に関するマニュアルを作製しました。

MYSV感染葉の摩砕



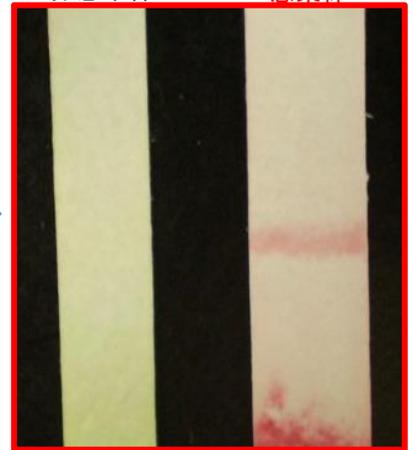
ろ紙への液の吸い上げ

(摩砕液) (着色液)



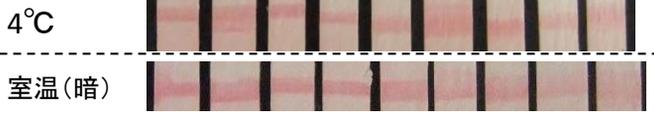
検定結果の確認

非感染株 感染株



診断は15分程度で容易に実施でき、生産現場でも診断可能

作製当月
2ヶ月後
4ヶ月後
6ヶ月後
8ヶ月後
10ヶ月後
12ヶ月後
14ヶ月後
16ヶ月後



資材は1年程度の保存が可能



作製した診断マニュアル

(研究成果)

- ・ 作製した検定ろ紙により、キュウリ黄化えそ病に罹病した株の葉から15分程度でMYSVの検出ができます。
- ・ 作製した資材は冷蔵もしくは光の当たらない室温で1年程度保存でき、マニュアルに基づいた操作により生産現場で迅速かつ簡便な診断が可能です。
- ・ 迅速な診断ができることで、罹病株の早期処分によって病気の蔓延を防ぐことができ、改植など適切な対応を速やかに行うことができます。